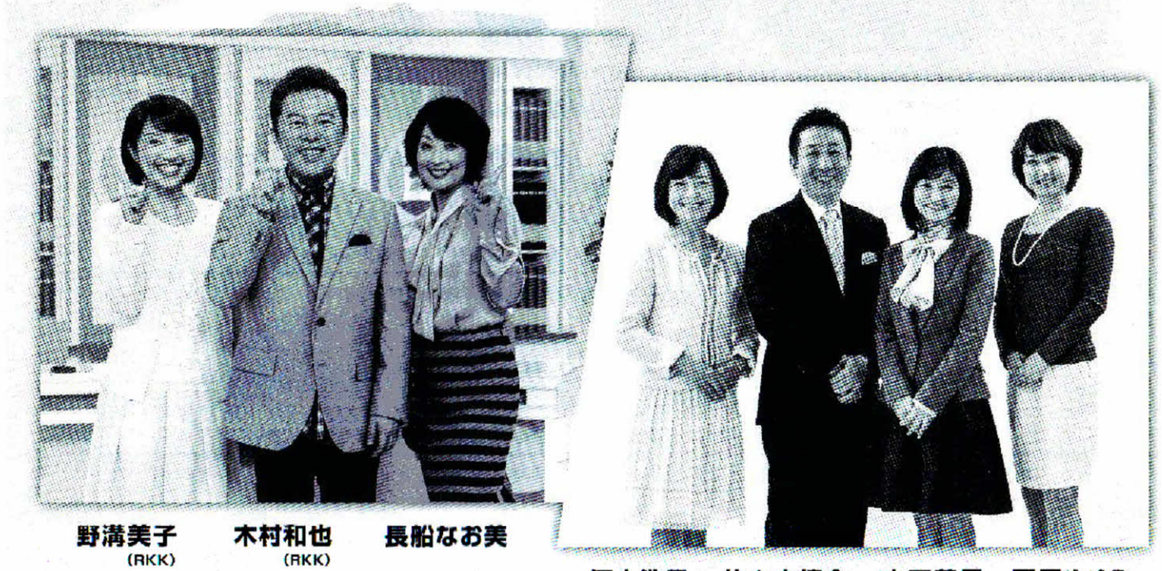
RKKテレビは
3ch
RKK INFORMATION
熊本の生活情報×ニュース
RKKにおまかせ下さい。



野溝美子 (RKK)　木村和也 (RKK)　長船なお美
江上浩子 (RKK)　佐々木慎介 (RKK)　本田恭子 (RKK)　栗原めぐみ (気象予報士)

夕方いちばん
月～金曜 16:00

夕方いちばん NEWS
月～金曜 18:15

週刊U崎くん
水曜 よる7時
1994年4月スタートのRKK看板長寿番組。
グルメ、温泉からドキュメンタリーまでなんでも
"熊本"をとりあげます。
司会：大田黒浩一　柿木綾乃

RKK
熊本放送
http://rkk.jp

熊本県民第九の会 第31回
第56回 熊本県芸術文化祭参加

ベートーヴェン

第九

第31回

平成26年12月7日㈰午後6時15分
熊本県立劇場コンサートホール

主催／熊本県民第九の会・熊本県文化協会
共催/(公財)熊本県立劇場
後援／NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・エフエム熊本・FM791

熊本県知事

蒲　島　郁　夫

ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

今年で31回目となる本演奏会は、年末の風物詩として広く県民に親しまれており、私を含め多くの方が開催を心待ちにしておられるものと思います。

今回は、北欧を中心に活躍されている新田ユリさんを指揮者にお迎えし、熊本交響楽団の調べに乗せて４人のソリストと熊本県民第九の会合唱団300人が「歓喜の歌」を歌われます。今宵、歌声がコンサートホールいっぱいに響き渡り、会場全体が感動の渦に包まれることでしょう。

御来場の皆様方におかれましては、夢のようなひと時をたっぷりと御堪能ください。

さて、本演奏会を主催される「熊本県民第九の会」は、昭和57年に熊本県立劇場と時を同じくして誕生し、県立劇場と共に歩んでこられました。多くの方に、日本を代表する指揮者のもと一流のソリストと共演するという非日常の体験をしていただきたいとの想いから、公募による合唱団を編成されています。これまで延べ9,000人を超える方々がこの貴重で感動的な体験をされており、なかには会の発足以来31年連続して参加している方もいらっしゃると伺っています。

「熊本県民第九の会」におかれましては、観客と演者が一体となった、この歓びに満ち溢れる演奏会を継続し、今後も本県の文化振興に御尽力いただきますようお願い申し上げます。

熊本県立劇場館長

葉　山　完　治

熊本の師走の風物詩、ベートーヴェン「第九」の演奏会の開催おめでとうございます。

第31回を迎える今年は、熊本県立劇場のエレベーターやトイレ、照明設備などの改修工事のため、いつもの年より早目の開催をお願いすることとなりました。その分、熊本県民第九の会合唱団や熊本交響楽団など関係の皆様には準備が慌ただしかったのではなかと思います。

今年の県立劇場の施設の利用は、本日までです。リニューアルオープンは来年３月。きょうの「第九」が今年のステージを締めくくる、いわば“おおとり”の公演となります。

今年は、全国各地で大雨による災害が発生したほか、御嶽山の噴火の被害などもあり、自然の猛威を改めて実感させられた年でもありました。

今宵、「歓喜の歌」を高らかに響かせ、平穏な日々を祈り、人々の連帯や絆を高めて、明日への希望につなげていただければと思います。

今年は、指揮者に日本フィルハーモニー交響楽団など国内の多くの交響楽団を指揮するとともに、フィンランドなど海外でも活躍している新田ユリさんをお迎えします。新田さんは第２９回以来２回目です。

ソリストには、アルトの愛甲久美さん、バリトンの平和孝嗣さんを初めて迎えます。ソプラノの河添富士子さんは、今回が４度目久しぶりの出演で、テノールの樋口達哉さんも２度目の出演で、熊本ではお馴染みです。

県内の公募によって編成された300人の合唱団と熊響の心のこもった演奏を、ともに楽しみあいたいと思います。

熊本県文化協会会長

吉　丸　良　治

第31回「熊本県民第九の会」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

熊本県立劇場の柿落しとして始まったこの演奏会は、クリスマスシーズンを飾る県民参加のすばらしい音楽祭として親しまれています。これも「熊本県民第九の会」の長年の御努力の賜であります。

世界中で愛され演奏され続けているベートーヴェン「第九交響曲」は、友人や家族など愛する人がいる人生の素晴らしさが歌われているといわれています。

今年も県内から公募によって選ばれた300人の皆さんで結成された合唱団は、指揮者の新田ユリさんのもと、第一線で活躍中の４人のソリストの皆さん、そして熊本交響楽団の皆さんが一つになって感動的な「第九」を聴かせていただけるものと楽しみにしています。

「熊本県民第九の会」の演奏会が、今日まで続けてこられたのも、合唱団、熊本交響楽団の皆さん、そして実行委員会の方々の御熱意、御努力のおかげであり、又、応援していただく多くの県民の方々あってのことであります。

これら多くの関係者の皆様に熊本県文化協会としても深く御礼を申し上げます。

本日の演奏会の御盛会を御祈念申しあげ、お祝いのごあいさつといたします。

熊本県民第九の会実行委員長

神　田　一　伸

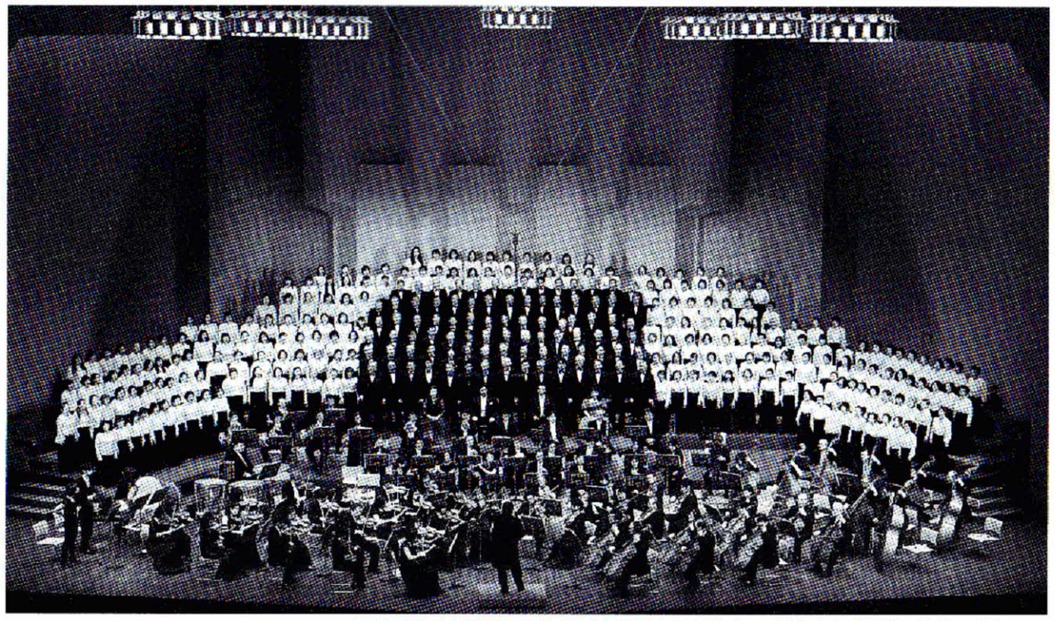
本日は年末のお忙しい中、「熊本県民第九の会」第31回演奏会へ足をお運びいただき心より感謝申し上げます。今回の指揮は、日本では勿論フィンランドをはじめ北欧諸国への客演指揮者としてご活躍中の新田ユリ先生です。ソリストはソプラノに平成12年以来久しぶりの河添富士子先生。アルトは初登場となる愛甲久美先生、テノールは平成21年に続く２度目の樋口達哉先生です。バリトンは「熊本県民第九の会」の合唱指導をお願いしている平和孝嗣先生です。

さて熊本の年の瀬を飾る風物詩として定着した感のあるこの演奏会ですが、毎年いろんなことに出会います。今年４月に平成５年以来合唱指導をお願いしておりました工藤勇壹先生が亡くなられました。人を惹きつけるユーモアあふれるお話につい引き込まれてしまう暖かい先生でした。ご冥福をお祈り申し上げます。また、合唱指導には今年から久しぶりに岩代和武先生をお願いいたしました。「熊本県民第九の会」の合唱指導は平成元年以来25年ぶりです。

この他にも今年は「のべおか第九」や「えびの第九」へ有志での参加が予定されています。地域文化交流の一環になればと思っております。昨年ご好評いただいたアンコールの「歓喜の歌」、今年も客席の皆様とご一緒に奏でたいと思っています。お手元の楽譜を参考にご唱和の程よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが熊本県文化協会、熊本県立劇場を始め関係各位のご協力には心より感謝申し上げます。今後とも「熊本県民第九の会」末永くご支援のほどどうか宜しくお願い申し上げます。

指　揮		新田ユリ
独　唱	ソプラノ	河添富士子
	アルト	愛甲久美
	テノール	樋口達哉
	バリトン	平和孝嗣
合　唱		熊本県民第九の会合唱団
	合唱指揮	平和孝嗣
		中島章利
		岩代和武
	ピアノ	古閑恵美
		星子眞澄
		林原ゆり
		隈部文
		川辺里美
管弦楽		熊本交響楽団



平成25年12月22日(日)《第30回熊本県民第九の会演奏会（指揮=井崎正浩）》

指揮　新田ユリ
（にった　ゆり・Yuri Nitta）

国立音楽大学卒業後桐朋学園大学ディプロマコース指揮科に進む。指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、小松一彦各氏に師事。1990年第40回ブザンソン国際青年指揮者コンクールファイナリスト。1991年東京国際音楽コンクール指揮部門第2位。1991年に東京交響楽団を指揮してデビュー。その後も東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ･フィルハーモニック管弦楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉、仙台フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団、札幌交響楽団、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、大阪センチュリー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、アンサンブル金沢、京都フィルハーモニー室内合奏団、東京室内合奏団、愛知室内オーケストラを指揮。東京佼成ウィンドオーケストラ、大阪市音楽団と共演、録音、またシエナ・ウィンド・オーケストラ、東京吹奏楽団にも客演。オペラでは、横浜シティオペラ、大田区民オペラ協議会でモーツァルトの5大オペラ、「夕鶴」などを指揮。

2000年10月～2001年10月、文化庁芸術家在外研修員としてフィンランドに派遣され、音楽監督オスモ･ヴァンスカ氏のもとラハティ交響楽団で研修。フィンランド国立歌劇場とサヴォンリンナ音楽祭においても、オスモ･ヴァンスカ氏のアシスタントを務める。これまでにクオピオ交響楽団、ミッケリ市管弦楽団、ヨエンスー市管弦楽団、フィンランド海軍吹奏楽団、フィンランド国防軍吹奏楽団、ラ・テンペスタ、クリスチャンサン交響楽団などフィンランドはじめ北欧諸国へ客演を続けている。

2005年～2007年オウルンサロ音楽祭へ招聘、2006年、2013年リエクサ・ブラスウィーク客演。2005年9月にフィンランド日本友好協会よりラムステッド基金奨学金を授与される。また2006年4月にはオクタヴィア・クリストンよりヨウコ・ハルヤンネ氏（フィンランド放送交響楽団ソロ首席トランペット奏者）との共演CD<Symbiosis>がリリースされた。

2006年、2007年には東京新聞フォーラム「指揮者がみたフィンランド」にて講演と演奏のプロデュース･指揮を務めた。2007年4月より2009年3月まで中日新聞「エンタ目」に月1度コラムを執筆。プログラムノートの執筆も多く自分の公演のほか、北欧音楽を取り上げた2007年5月紀尾井シンフォニエッタ東京、2008年1月NHK交響楽団の定期演奏会を担当。2008年6月、2010年7月にNHK「名曲探偵アマデウス」に出演。シベリウスの「フィンランディア」「交響曲第2番」を特集した番組の解説を務める。

日本シベリウス協会事務局長・理事。国立音楽大学、桐朋学園大学、相愛大学、同志社女子大学などで後進の指導に当たっている。アイノラ交響楽団正指揮者「森と湖の詩サロンコンサート」主宰。

2015年1月より、一般社団法人愛知室内オーケストラの常任指揮者に就任が決まっている。

○公式ホームページ「森と湖の詩」
http://www.yuri-muusikko.com

河添富士子（かわぞえ　ふじこ）

ソプラノ

東京藝術大学音楽学部声楽科を経て、同大学院音楽研究科オペラ科修士課程修了。第32回藝大オペラ「フィガロの結婚」（モーツアルト）の伯爵夫人でオペラデビュー。東京文化会館主催　新進音楽家デビューコンサートに出演。サントリーホールでのトヨタ・コミュニケーションコンサート200回記念メンデルスゾーンのオラトリオ「エリア」(指揮／クルト・レーデル)、東京文化会館主催「ネルソン・ミサ」(ハイドン)、「Vesperare solennese de confessore」(モーツァルト)、「レクイエム」(フォーレ)、台東区、取手市、杉並区主催のベートヴェン「第九」等のソリストを務めるなど各地にて活躍している。　特に熊本においては、'93、'96、2000年「第九」のソリストを務めている。2010年には熊本でリサイタルを行い好評を得る。　ヴォーカルアンサンブルグループ「クワットロB」主宰。 これまでに、岩津整明、三浦久美子、曽我栄子、藤枝昭俊、木村宏子、ウバルト・ガルディーニの各氏に師事。

現在、熊本学園大学、大分県立芸術文化短期大学、熊本市立必由館高等学校芸術コース(音楽系)非常勤講師。二期会会員。

愛甲　久美（あいこう　くみ）

アルト

宮崎県出身。東京学芸大学卒業、同大学院修了。1990年にウィーン国立歌劇場研究生のオーディションに合格し、同劇場主催のオペラ・コンサートにソリストとして出演する。1992年スパツィオムジカ声楽コンクール（イタリア）入選。

1995年若杉弘指揮、東京室内歌劇場公演で、日本でのオペラデビュー。以後同歌劇場の公演に多数参加し、2003年には韓国国立劇場で行われた同歌劇場韓国公演に参加する。

オペラでは「カルメン」のカルメン、「蝶々夫人」のスズキ、「アイーダ」のアムネリス、「フィガロの結婚」のケルビーノ、「ヘンゼルとグレーテル」のヘンゼル、「こうもり」のオルロフスキー等多くの役を演じる。

コンサートではヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ベートヴェン「第九」のソリストの他、日仏伊独・スペインの歌曲演奏や邦人作品の初演も多数行っている。

東京二期会、東京室内歌劇場各会員。大分県立芸術文化短期大学准教授。

樋口　達哉（ひぐち　たつや）

テノール

福島県出身。武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了後ミラノに留学。E.カルーソー国際声楽コンクール最高位等、受賞歴多数。

'98年、ハンガリー国立歌劇場「ラ・ボエーム」ロドルフォ役でヨーロッパデビュー後、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場管弦楽団、モンテカルロフィルハーモニー交響楽団、キューバ国立交響楽団、オマーン王立管弦楽団等と共演。その他、ボルドー歌劇場、パリ・マドレーヌ寺院、テル・アヴィブ等、各地で出演を重ねる。

2010年にはミラノDUOMO、サン・ピエトロ大聖堂(ヴァチカン)の公演で大成功をおさめる。

国内に於いても新国立劇場、二期会を中心に活躍。二期会公演では『ダフネ』のデビュー以来、『仮面舞踏会』、「エフゲニー・オネーギン』、『椿姫』、『蝶々夫人』、『ファウストの劫罰』、『こうもり』、『ホフマン物語』と立て続けに主演し、いずれも高い評価を得る。日本オペラでも「夕鶴』、『黒船』、『修禅寺物語』、『忠臣蔵・外伝』等で抜群の存在感を示す。

近年の舞台では、『トゥーランドット』(カラフ)、新国立劇場『ナブッコ』(イズマエーレ)、二期会『ホフマン物語』（ホフマン）、同『蝶々夫人』(ピンカートン)で好評を博した。

その他、『第九』、「ＮＨＫ・ＦＭ名曲リサイタル」、『ＮＨＫニューイヤー・オペラコンサート('08.'09.'11.'12)』等で活躍。イタリアの太陽を想わせる輝きのある声と華を持つ日本を代表するテノールとして多くのファンを魅了している。男声ユニット『ザ・ジェイド』としても活躍。

2012年「Per te　～君のために～」、今年９月にはセカンド・アルバム『Passione』をソニー・ミュージックよりリリース。

二期会会員。武蔵野音楽大学、東京芸術大学大学院各講師。

平和　孝嗣（ひらわ　たかつぐ）

バリトン

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程ソロ科修了、文化庁オペラ研修所入所（第一期生）、ウイーン国立音楽大学卒業（オーストリア政府給費留学）。1978年シューベルト・ヴォルフ国際音楽コンクールでディプロム獲得。これまでドイツリートを中心に22回のリサイタルを開催。 '00,'01年には熊本・東京・ドイツで歌曲集「詩人の恋」等 "ハイネの詩によるシューマンの歌曲"、'02 '03年にはドイツ・ウイーン・熊本でシューベルトの歌曲集「冬の旅」、'08,'09年には熊本と東京文化会館小ホールにて "ベートーヴェンとマーラーの歌曲"、昨年10月には熊本で "日本歌曲とドイツ歌曲" によるリサイタルを開催。また、ジョイント・リサイタル、ＮＨＫＦＭ，「メサイア」、「第九」、「戴冠ミサ」、「レクイエム」、「ファウストの劫罰」、バッハ等における宗教曲など多くのコンサートにソリストとして出演。オペラでは「魔笛」、「フィガロの結婚」、「ドン・ジョヴァンニ」、「コシ・ファン・トゥッテ」、「カルメン」、「泥棒とオールドミス」、「こうもり」、「ヘンゼルとグレーテル」、創作オペラ等々出演多数。　また熊本ＹＷＣＡ主催の被災者支援活動等にも演奏や指揮で参加。熊本県新人演奏会実行委員及び審査員、熊日学生音楽コンクール審査員他、九州各県でのコンクールにおける声楽部門の審査員等も務めている。

県文化協会、熊本日独協会、日本演奏連盟会員。東京藝術大学同声会熊本県支部長、熊本大学名誉教授。今年３月、熊本大学退職後は、国立看護学校非常勤講師、学校法人第一学園非常勤講師、熊本大学非常勤講師。

合唱指揮者プロフィール

平　和　孝　嗣

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程修了。文化庁オペラ研修所入所（第一期生）。ウィーン国立音楽大学卒業（オーストリア政府給費留学）。これまで熊本や東京、ドイツ、ウィーン等々で22回のリサイタルを開催。また、多くのオペラやコンサートにも出演。他、熊本をはじめ、九州でのいろいろな音楽コンクールの審査員も務めている。熊本日独協会、熊本県文化協会、日本演奏連盟会員。熊本大学名誉教授。

岩　代　和　武

武蔵野音楽大学声楽科卒業後、熊本県立高校に教諭として35年間勤務。その後、熊本国府高等学校に非常勤講師として４年間勤務。現在、合唱団アルビレオ、ＪＢクリスタル合唱団、灯コーラスグループ「歌人の会」指揮者。熊日学生音楽コンクール合唱部門審査員。平成12年にくまもと県民テレビが企画・制作したＤＶＤ「火の国旅情」の混声合唱テノールパートを担当。声楽を新圭子、板橋勝、疋田生次郎、藤沼昭彦、下野昇の各氏に師事。

中　島　章　利

北海道大学卒業。中学校、高校時代を熊本で過ごしサッカー部に所属。大学入学と同時に女子学生の甘い勧誘によって合唱に引きずり込まれ現在に至る。合唱指揮を故木内宏治氏(北海道合唱団指揮者)、管弦楽指揮を栗田哲海氏(九州交響楽団をはじめとして新日本フィル、新星日響など国内の著名オケを指揮。春日市民交響楽団常任指揮者)に師事。声楽を中尾富子(故)、石田久大、三浦國彦の各氏に師事。昭和61年札幌市新人音楽会声楽部門に出演。札幌で多数の合唱団を指導。帰福後、現在はロシア作品を中心的に歌う女声合唱団チャイカを主宰。同合唱団ホームページでロシア歌謡について多彩な情報を発信している。男声合唱団KGC(熊本)指揮、コールかもめ(熊本)指揮。福岡合唱指揮者協会会員。

ピアニスト プロフィール

古　閑　恵　美

国立音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。数多くの演奏会にピアニストとして出演する一方、様々な著名演奏家のリサイタルでピアニストを務める。合唱ピアニストとしても国内トップレベルの合唱団から数多く招かれ、コンクールや演奏会で高い評価を受けている。尚絅短期大学、中九州短期大学、熊本学園大学講師を歴任。現在、様々な演奏活動を行っている。

星　子　眞　澄

国立音楽大学ピアノ専攻卒業。オーストリア・ウィーン私立プライナーコンセルヴァトリウム2期修了。国立音楽大学卒業演奏会、熊本県新人演奏会、西日本新人演奏会に出演の他、３回のソロリサイタルを行う。現在、ルーテル学院大学兼任講師、熊本文化懇話会会員。

林　原　ゆ　り

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会等に出演。ソロ・デュオコンサート開催。合唱・声楽・器楽等の伴奏ピアニストとして活動している。熊本県立第一高等学校合唱団、コールソレイユ、コーロフィオーレ伴奏ピアニスト。

隈　部　　文

国立音楽大学教育音楽学科リトミック専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会などに出演。リトミック国際免許保持者。現在、平成音楽大学勤務、熊本YMCA学院講師、リトミック研究センター熊本支局顧問。また、幼稚園、保育園、高齢者施設でもリトミックを行っている。

川　辺　里　美

熊本大学教育学部音楽科卒業後、福島大学大学院教育学研究科音楽教育専修修了。Van　Vertコンサート、NHK美術館コンサート等に出演。アンサンブルピアノの夕べ、フランス音楽の夕べなどを開催。大阪音楽国際音楽コンクール連弾部門入選。現在、福岡で音楽活動を行っている。

プログラム
PROGRAM

1. 序曲「コリオラン」ハ短調　作品62
ベートーヴェン

2. 交響曲第9番 二短調 作品125「合唱付き」
ベートーヴェン

第1楽章　Allegro ma non troppo e un poco maestoso

第2楽章　Molto vivace

第3楽章　Adagio molto e cantabile

第4楽章　FINALE

皆さん一緒に第九を歌いましょう

熊本県民第九の会は、県立劇場の柿落としの事業として「ベートーベンの第九」が企画され、オーケストラは熊響、合唱団は広く県民に呼びかけ結成され、熊本県民手作りの演奏会として開催されました。

この演奏会が大変好評で、関係者の皆様から熊本県民の第九として継続してほしいとのご要望から、実行委員会が組織され、プログラム末尾に記載のとおり、毎年国内外の著名な指揮者・ソリストを招いて開催しています。

一流の指揮者、ソリスト、約100名からなるオーケストラ、そして約300名の合唱団。この大編成のステージに立って同好の仲間と歌う感動・感激は体験した人しかわかりません。

聴くだけでも感動する「ベートーヴェンの第九」です。皆様方も、この第九の合唱に参加し、体験することで、感動を一層大きく深いものにしてみませんか。

県民第九の会の合唱団員募集期間は毎年６月上旬からはじまり、７月末日が締め切りとなっています。「合唱団団員募集要項（申込書）」は６月上旬から県立劇場・崇城大学市民ホール・西野楽器店その他県内の主要文化施設に置きますのでご利用下さい。

練習期間は８月中旬に結団式を行い、９月から12月まで月３回程度のペースで、主として日曜・祭日の午後に合計13～14回程度の練習です。

来年は是非お申し込み頂きたく、ご案内申し上げます。

皆様方のご参加を心からお待ちしています。

熊本県民第九の会実行委員会
お問合せ　事務局　090-2851-1007

■ シラー《歓喜に寄す》

対訳=大宮　真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken,
　Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
　Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
　Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
　Wo dein sanfter Flügel weilt,

Wem der grosse Wurf gelungen,
　Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
　Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
　Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
　Weinend sich aus diesem Bund !

Freude trinken alle Wesen
　An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
　Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
　Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
　Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen
　Durch des Himmels prächt'gen Plan,
　Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

Seid umschlungen, Millionen !
　Diesen Kuss der ganzen Welt !
　Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
　Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

バリトン独唱
おお、友よ、この調べではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう!

バリトン独唱・合唱
歓びよ、神々のうるわしい輝きよ!
楽園の娘らよ!
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう!
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋（はらから）となる。

四重唱・合唱
大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情をかち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歓びの歌を、ともに歌え!
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば!
だが、それさえ持つことのできなかった者は、
涙しつつ、足音をしのばせ、立ち去るがよい!

四重唱・合唱
すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歓びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
歓びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルビムは、神の御前立つ。

テノール独唱・男声合唱
歓びよ、歓びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋（はらから）よ、おのれの道をすすめ、
歓びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

合　唱
たがいに手をとり合おう、億万の人々よ!
この口づけを、全世界にあたえよう!
同朋（はらから）よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか?億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか?世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう!
星たちのうえに、主は住み給うのだ!

1. 序曲「コリオラン」ハ短調　作品62
ベートーヴェン

コリオランは、紀元前5世紀ごろのローマの英雄である。紀元前494年にローマが共和政体になるに及んで、政治上の意見の相違により、コリオランは、国外追放となる。2年後、隣国ヴォルシアの将軍となったコリオランは、大軍を率いて故国ローマを攻める。しかし、城門まで迫ったコリオランは、彼の母ヴォーラムニアと妻ヴァールジアの必死の説得により、ついにヴォルシア軍に反旗をひるがえし、再びローマ側につくことになり、その結果謀殺されることになるのである。

ベートーヴェンが序曲「コリオラン」を作曲したのは、ベートーヴェンと親しい関係にあり、当時ウィーンの宮廷秘書官で詩人のハインリヒ・ヨーゼフ・コリンの戯曲「コリオラン」の上演が直接の動機となっているものの、この戯曲が上演された5年後の1807年に、序曲「コリオラン」が作曲されたことを考えると、この序曲が戯曲の上演のために書かれたものとは言えない。

ベートーヴェンは、かれの唯一のオペラである「フィデリオ」のために序曲を4曲も書いている。その他の序曲は、ほとんどが劇音楽やバレエ音楽などの序曲である中にあって、この序曲「コリオラン」だけは、全くの独立した序曲である。この曲の初演は、作曲された1807年にロブコヴィッチ公のサロンでの予約演奏会で行われた。この演奏会のプログラムは、ベートーヴェンの作品だけのもので、この序曲のほかに、交響曲第1番から第4番までと、ピアノ協奏曲第4番となっており、交響曲第4番とピアノ協奏曲第4番も初演であった。

曲は、ソナタ形式で、ハ短調というベートーヴェンにとっては宿命的といえる調性で書かれており、その性格は劇的な内容を持っている。冒頭で、弦楽器のユニゾンによってハ音がffで鳴らされると、全合奏による下属和音で断ち切られる。更に冒頭と同じ弦楽器のユニゾンによるハ音が奏され、全合奏によって、今度は前回と異なる和音によって断ち切られる。これが3回繰り返えされるが、これはこの曲の序奏にあたるものである。

ソナタ形式の第1主題は、第1ヴァイオリンとヴィオラのよって奏されるもので、音程の上行、下行を繰り返しながら発展するというベートーヴェン的なモティーフ作法を採る。これはコリオランの高慢で情熱的な性格を表しているとも言われる。また、第2主題は、コリオランの母と妻の優しい姿が描かれると言われるものである。この二つの主題は見事な対照を見せている。最後に、この曲の冒頭の音形が今回は全合奏で奏されるが、その勢いは次第に衰え、あたかも死を思わせるかのように薄れていき、第1主題の断片がわずかに姿を見せるが、すべてはppのうちに終わる。

2. 交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」
ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ボンのフィッツェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきょに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大なる精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルントナートア劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終ったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

楽　曲　解　説

TUNE ; EXPLANATION

〔第一楽章〕Allegro ma non troppo e un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度（第三音がない）の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モティーフが生起する。このモティーフが圧縮され、第1主題が澎湃（ほうはい）として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然（しようぜん）たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持をもち、ときどき第1主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえぎる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

〔第二楽章〕Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と言っている。

〔第三楽章〕Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような明るく美しい第2主題は、この両主題にもとづく由由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱（ゆううつ）な感覚へと溶けさせていくことか、思い出がつとに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と言っている。

〔第四楽章〕FINALE

第1呈示部＝ます管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティフでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティフによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第2呈示部＝この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめる。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめる。そして男声合唱が、力強く歌いくわわる。

再現部＝やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わされて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ＝曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストーソとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問	下田宰城	事務局	坂口幸男
	本山　洋	委員	岩代和武
	林原隆治		奥野　聡
	草刈秀士		川田幸子
委員長	神田一伸		高倉正純
			田北洋康
			黒葛原　潔
			藤本幸弘
			山崎崇伸

「熊本県民第九の会」合唱団

インスペクター　中島章利　　CHORUS

Soprano〈ソプラノ〉

相川久仁子
青谷正子
池田三千代
井芹順子
伊豆野加奈子
入部一代
岩木恵子
伊藤春美
岩永宣子
岩本陽子
上村貴世
上村治美
大石洋子
大村由美
岡沢康子
緒方和子
小倉真里子
小野順子
梶原紀久子
川田幸子
川部恵子
清永ヤヨヒ
吉良久子
金城嘉代
工藤たみ子
久保田雅子
倉田美穂
蔵元由美子
栗崎博子
黒田淳子
小島淑子
古城久美子
齊藤逸子
佐藤淑子
沢田和代
清水圭子
杉　輝子
杉本由美子
園田扶美
高岡久美子
高田碩子
高森さつき
田島幾子
田中フミヨ
谷口登紀子
種子野栄子
近田綾子
鶴田範子
寺澤孝子
永田桂子
永松信子
中村えみ子
中村久代
橋本じゅんこ
服部敬子
馬場みずほ
濱田洋子
早田章子
春田香子
東　恵子
東　由紀子
日高美紀
日吉由伎瑚
福永美穂子
藤島礼子
藤田悦子
藤本淑子
前田弥生
増永明美
松川干晶
松永洋子
松本和代
松村紀子
三木恵理子
三島多恵子
光延美知恵
宮本奈都美
宮本はつみ
村上実枝子
柳田美紀
山腰万里子
山隈由紀
山崎はるみ
山本美穂子
吉武信子
吉野光子

Alto〈アルト〉

明石瑠璃子
荒木斐子
荒木のり子
荒木雅子
荒木弥生
石坂真好
石原昌子
伊藤公子
伊藤富子
伊藤律子
今井尭子
今村かおる
上田真帆
内田禮子
江崎恭子
大久保庸子
大堂喜美子
大塚喜久子
大塚幸子
大沼美智子
緒方満喜子
沖米田恵子
小田原純子
小山智子
稼　悦子
加茂千枝子
河内通子
川上喜久子
川崎節子
河野田津子
菊池吟子
北原雅子
木下由美子
木原美智代
北村秋代
清川光乃
草刈登喜代
工藤敏代
倉岡　睦
栗崎幸子
古賀紀久子
後藤佳子
小宮千家子
榊原美智子
佐藤香枝子
佐藤加代子
佐藤美由紀
品川あかつき
柴田道子
杉本弘子
鈴木頼子
篠崎絵莉
高濱左衛子
高木智子
高比良栄子
田北真理
竹下敬子
竹田綾子
田中干勇子
田上冷子
田村直子
千年美穂
塚本和子
辻　幸子
鶴園葉子
靏田久美子
内藤邦子
中岡順子
中垣紀実恵
中川さよ
中川伸子
中島マサ子
中野俊子
長廣よしこ
中山弘子
名島和美
西　広子
錦戸美奈子
西田美津子
野村ちひろ
橋口泰子
長谷川すみよ
馬場美也子
早川陽子
久野春子
平井幸江
平野玲子
廣田邦子
深水美穂
福嶌邦子
藤原道子
藤原美智子
藤山朋子
古谷道子
星崎文代
堀　久美子
本田美加
益田留美
松尾留美子
松田由美子
松村恵美子
松本節子
松本美知代
丸岡升子
水野和子
峯田道子
三宅恵美子
宮原千草
宮辺浩子
宮原徳子
宮本裕子
村上早智子
村上博子
村田久美子
村田智美
森　敬子
森　幸子
森　扶美代
安田美喜子
八田セツ子
柳田恵子
山内かよ子
山形　幸
山口千春
山崎晴美
山下富江
山下久恵
山道きよの
山村玲子
山本公代
横田優子
吉島幸子
吉田真澄
吉田由美子
吉津茂美
米村光子
若槻スミ子

「熊本県民第九の会」合唱団

インスペクター　中島章利　　CHORUS

Tenor
〈テノール〉

青木　敬
赤川吉英
荒木綾史
岩崎正博
上村哲也
有働利信
梅田正男
岡本　登
小川正治
奥村敏之
園城陽二
菊池範明
清野浩一
小塚基夫
堺　公二
坂口幸男
笹田　亮
佐藤安彦
潮崎真一
高倉正純
高田英一
田尻重信
塚本　哲
柘植治人
中村公俊
中村諄浩
名島弘和
西垣　洋
林　端栄
原村憲司
閘　賢一
日吉勇弼
平林武樹
深水博元
古木英治
増永秀幸
松尾　眞
三木徳兼
宮本　亨
免出雅俊
村上忠郎
森　三千雄
矢上一英

Bass
〈バス〉

赤池庄一
安藤敬久
石原陽平
内山龍之介
恵良正己
黄木淳毅
大津敬一朗
加藤清一
狩俣寿哉
河野義孝
神田一伸
菊池建朗
菊池忠孝
木下隆雄
木庭正士
小宮山清光
小森田　浩
近藤　隆
高木幹史
高塚敬介
多田隈浩介
槌田武水
中田淳司
中村義彦
南里　滋
野中　誠二
橋口　治
花田　淳
春木　悟
福嶋義矢
福池淳一郎
福池　裕
古庄直也
星乃洋二
本宮詳造
前川賢夫
松下承生
松村雄二郎
三浦秀登士
三浦喜之
三鑰文晴
宮本紀一郎
許田重治
山内庸行
米村甲矢夫
笠　肇

練習風景

熊本交響楽団

KUMAMOTO SYMPHONY ORCHESTRA

〈コンサートミストレス〉　鶴　和美

<1st Violin>

鬼塚雅子
坂本辰郎
佐藤弘美
佐藤ゆい子
髙木恭子
高木信夫
髙木範貢
田中真由美
谷川くみ子
田上るみ子
黒葛原契子
鶴　和美

<2nd Violin>

伊藤大輔
岩橋和江
岡　純子
坂本雅之
迫田美和
中尾麻美子
原　雅子
東　眞知子
戸次奏瑛
村田裕子
隣　真理子

<Viola>

荒木拓実
荒木智子
池辺京子
尾谷友紀
春日芳文
桂　敦子
甲田啓子
小谷朋弘
駒井龍太
黒葛原　潔
山﨑崇伸

<Cello>

内賀嶋直美
金子岳史
田畑範明
槌田博文
長尾和治
長坂輝喜
野島秀司
佛淵かつよ
佛淵信夫

<Contrabass>

石津　雅
岡田尚子
古泉俊彦
國米　稔
後藤誠司
坂田英津子
白木信一郎
田上博子
中島まゆみ

<Flute・Piccolo>

塚本菜月
寺尾みのり
日野栄理

<Oboe>

片岡久哉
辰野裕昭
三井悠梨子

<Clarinet>

岩瀬里佳
黒木健次
前野美千代
笠　千帆

<Bassoon・Contrabassoon>

小田穂積
切通志保
新屋敷有紀
蓮沼　昇
黒田孔太郎

<Horn>

上野竜志
加久美雪
猿渡伸之
野村　梢
松元俊賢

<Trumpet>

今村隆志
上村佳朗

<Trombone>

梅田雄介
田北洋康
安永沙織

<Timpani>

金坂義徳
福島　好

<Percussion>

坂本佳代
永吉　萌
福島　好

第1回　昭和57年12月28日（火）　越天楽（雅楽）（近衛秀麿編曲）

指揮／山田　一雄　独唱／新　圭子　木村　宏子　伊豆野　修　高橋　修一

第2回　昭和58年12月11日（日）　楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲（ワーグナー作曲）

指揮／大友　直人　独唱／高見久美子　岡　ますみ　大野　光彦　柴田　啓介

第3回　昭和59年12月27日（木）　弦楽のためのアダージョ 作品11（バーバー作曲）

指揮／山岡　重信　独唱／中沢　桂　木村　宏子　板橋　勝　池田　直樹

第4回　昭和60年12月25日（木）　序曲「レオノーレ」第3番 ハ長調 作品72a（ベートーヴェン作曲）

指揮／ﾌﾗﾝﾃｨｼｪｯｸ･ﾜｲﾅｰﾙ　独唱／三縄みどり　妻鳥　純子　伊達　英二　中村　邦男

第5回　昭和61年12月27日（火）　トッカータとフーガ ニ短調（J.S.バッハ作曲/ストコフスキー編曲）

指揮／荒谷　俊治　独唱／津下美奈子　木村　宏子　鈴木　寛一　芳野　康夫

第6回　昭和62年12月26日（土）　「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84（ベートーヴェン作曲）

指揮／安永武一郎　独唱／中沢　桂　木村　宏子　近藤　伸政　栗林　義信

第7回　昭和63年12月25日（日）　序曲「コリオラン」ハ短調 作品62（ベートーヴェン作曲）

指揮／安永武一郎　独唱／三縄みどり　木村　宏子　鈴木　寛一　平野　忠彦

第8回　平成元年12月24日（日）　「プロメテウスの創造物」序曲 作品43（ベートーヴェン作曲）

指揮／小松　一彦　独唱／秋山恵美子　木村　宏子　成田　勝美　高橋　啓三

第9回　平成2年12月23日（日）　「ロザムンデ」序曲 作品26（シューベルト作曲）

指揮／籾山　和明　独唱／山田　綾子　木村　宏子　大野　徹也　福島　明也

第10回　平成3年12月23日（月）　「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84（ベートーヴェン作曲）

指揮／安永武一郎　独唱／西森　由美　木村　宏子　田中　誠　宮原　昭吾

第11回　平成5年12月23日（木）　楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲（ワーグナー作曲）

指揮／荒谷　俊治　独唱／河添　富士子　春日　成子　小林　彰英　栗林　義信

第12回　平成6年12月25日（日）　「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84（ベートーヴェン作曲）

指揮／金　洪才　独唱／岩永　圭子　妻鳥　純子　饗場　知昭　勝部　太

第13回　平成7年12月24日（日）　モテット“アヴェ・ヴェルム・コルプス”k.618（モーツァルト作曲）

指揮／金　洪才　独唱／西森　由美　妻鳥　純子　大島　博　大島　幾雄

第14回　平成8年12月23日（月）　カンタータ第147番よりコラール“主よ、人の望みの喜びよ”BWV147（J.S.バッハ作曲）

指揮／本名　徹二　独唱／河添富士子　妻鳥　純子　大間知　覚　瀬戸口　浩

第15回　平成9年12月21日（日）　序曲「コリオラン」ハ短調 作品62（ベートーヴェン作曲）

指揮／金　洪才　独唱／志岐由理子　妻鳥　純子　牧川　修一　小川　裕二

第16回　平成10年12月20日（日）　序曲「レオノーレ」第3番 ハ長調 作品72a（ベートーヴェン作曲）

指揮／井崎　正浩　独唱／佐々木典子　岩森　美里　井ノ上了吏　瀬戸口　浩

第17回　平成11年12月19日（日）　「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84（ベートーヴェン作曲）

指揮／レオ・クレーマー　独唱／水野　貴子　青山智英子　持木　弘　松本　進

第18回　平成12年12月23日（土）　歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b（ベートーヴェン作曲）

指揮／金　洪才　独唱／河添富士子　妻鳥　純子　大間知　覚　大島　幾雄

第19回　平成13年12月23日（日）　歌劇「魔弾の射手」序曲（ウェーバー作曲）

指揮／田代　詞生　独唱／佐々木典子　青山智英子　井ノ上了吏　松本　進

第20回　平成14年12月22日（日）

指揮／松尾　葉子　独唱／三縄みどり　杉野　麻美　米澤　傑　瀬戸口　浩

第21回　平成15年12月21日（日）　喜歌劇「こうもり」序曲（J.シュトラウス作曲）

指揮／井崎　正浩　独唱／佐々木典子　大林　智子　米澤　傑　松本　進

第22回　平成16年12月26日（日）　「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84（ベートーヴェン作曲）

指揮／大山平一郎　独唱／安藤赴美子　一色　礼子　五十嵐　修　木村　俊光

第23回　平成17年12月25日（日）　序曲「コリオラン」 ハ短調 作品62（ベートーヴェン作曲）

指揮／田代　詞生　独唱／三縄みどり　妻鳥　純子　大間知　覚　佐久間　伸一

第24回　平成18年12月24日（日）　歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b（ベートーヴェン作曲）

指揮／山田　和樹　独唱／西森　由美　岩森　美里　井ノ上了吏　小川　裕二

第25回　平成19年12月23日（日）　混声合唱のための「うた」から（武満徹作曲）

指揮／山田　和樹　独唱／佐々木典子　加納　里美　井ノ上了吏　佐野　正一

第26回　平成20年12月21日（日）　「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84（ベートーヴェン作曲）

指揮／澤　和樹　独唱／松本美和子　山下　牧子　米澤　傑　松岡　聡

第27回　平成21年12月20日(日)　序曲「献堂式」 ハ長調 作品124（ベートーヴェン作曲）

指揮／現田　茂夫　独唱／三縄みどり　加納　里美　樋口　達哉　堀内　康雄

第28回　平成22年12月26日(日)　「エグモント」序曲 ヘ短調 作品84（ベートーヴェン作曲）

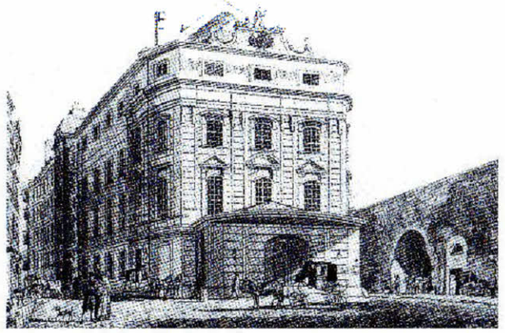
指揮／角田　鋼亮　独唱／藤本いくよ　山下　牧子　大澤　一彰　小川　裕二

第29回　平成23年12月25日(日)　交響詩「フィンランディア」作品26（シベリウス作曲）

指揮／新田　ユリ　独唱／本松　三和　山下　牧子　米澤　傑　松岡　聡

第30回　平成25年12月22日(日)　楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲(ワーグナー作曲)

指揮／井崎　正浩　独唱／佐々木典子　大林　智子　大澤　一彰　佐久間伸一



ベートーヴェンの第九交響曲の初演が行われたウィーンのケルントナートア劇場